

サーキュラーエコノミー

# ビジネスで創る循環経済社会

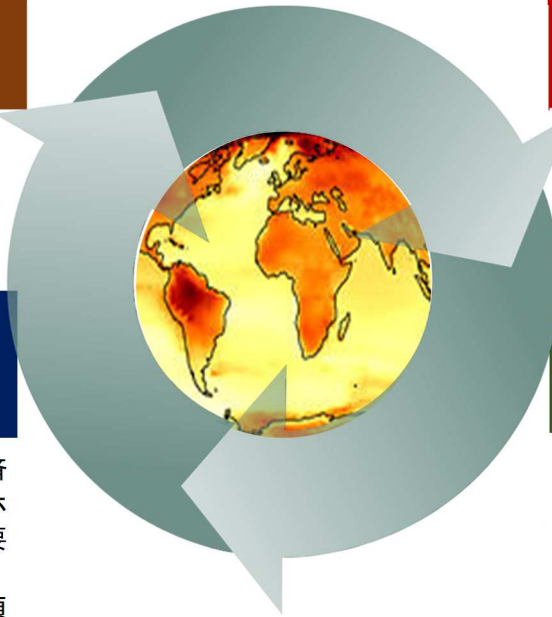
～ 資源生産性向上を目指して ～

2050年世界人口 97 億人  
と気候変動により  
「地球資源」は枯渇

世界人口増加と大幅な気候変動に伴い、あらゆる資源枯渇は必至。いかに一次素材を使わずに経済を維持・活性化しうるか？

市民×企業×行政（国・自治体）  
循環経済社会の形成

従来の線形消費経済を淘汰し「循環経済社会」を構築するには様々なステークホルダーとの対話を通じた「協創」が必要です。それらをビジネスサイドから考え行動頂くための場と機会を提供します。



グローバル化した  
線形型消費主導経済により  
「環境汚染」は深刻化

1世紀以上にわたる大量生産・大量消費により大量廃棄されたモノが深刻な環境汚染を招いている。持続可能な社会の「モノ」の生産はどうあるべきか？

持続可能な社会の構築へ  
ポスト SDGs を準備

SDGs 活動が本格化しつつある。「その次」に「循環経済社会」の構築が求められているが、それらを見据えたビジネスや技術は「今」仕込まねば間に合わない。ポスト SDGs を意識することを通じて SDGs の多数のゴールに貢献します。

## 「ビジネスで創る循環経済社会」キックオフ・ミニシンポジウムのご案内

開催日時 2021年7月21日（水）18：30～20：30 オンライン（参加費：無料）

☆ 詳しくは4ページをご参照ください。

講演者 妹尾堅一郎 NPO 法人産学連携推進機構 理事長

喜多川和典（公財）日本生産性本部 コンサルティング部エコ・マネジメントセンター長

### 1. 「循環経済生産性ビジネス研究会」（CE 月例会、オンライン）

期 間 2021年8月～2022年1月（日程：毎月1回、18：30～20：30）

対 象 役員、本部長クラス

内 容 循環経済に関する国内外の最新動向及び日本企業、社会へのインパクトを中心に行政、有識者、企業等による講演及び質疑

### 2. 「循環経済ビジネスに向けたイノベーションとビジネスモデル講座（基礎）」（原則オンライン）

期 間 2021年10月～2022年2月（日程：全10回、平日午後5回及び土曜終日5回）

対 象 部長、課長クラス（定員25名）

内 容 CE ビジネスモデルに関する基礎学習を行います

### 3. 「生産性シンポジウム」

日 程 2021年12月～2022年1月で開催予定（詳細は後日公開）

テーマ 「サーキュラーソサエティの実現に向けて～ビジネスも暮らしも変わる」（仮）

内 容 循環経済社会形成に向けた行政（国、地方自治体）、企業、市民活動の連携のあり方や、実現への課題と解決策を議論



日本生産性本部はSDGsを支援しています



公益財団法人 日本生産性本部

# インパクト 2050！ サーキュラーエコノミー 循環経済社会への準備は「今！」

2050 年が注目されています。日本をはじめ多くの国が 2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするという目標を出しただけではありません。サステナブル社会をグローバルに構築するため、欧州を中心に「サーキュラーエコノミー（循環経済）」（以下、CE）政策が進められており、多くの国々が 2050 年前後を目標年次としているのです。

では、なぜ CE なのでしょう。それは、従来の線形型消費主導経済が限界を示していることが背景にあります。

第一は、「地球資源の枯渇」です。人口増加に伴う資源需要に地球が応えられなくなってきたのです。世界人口が 95 億人を超える 2050 年には、消費意欲の盛んなミドルクラスが 60 億人を超え、地球 2 つ分の資源が必要という試算もあります。様々な資源の価格は高騰し、貧富の差をさらに拡大させかねません。

第二は、「環境汚染の深刻化」です。従来の線形型の消費主導経済は、多様・大量の廃棄物を生じさせてきました。例えば、プラスチック類は陸ばかりか海も汚染し、マイクロプラスチックは魚の食物連鎖を通じて人の健康を脅かし始めました。

このように、線形型の消費主導経済のインプット側は「前門の虎＝地球資源の枯渇化」、アウトプット側は「後門の狼＝環境汚染の深刻化」に直面し、両者に挟まれた経済は循環型に向かわざるをえないのです。その意味で、2030 年目標の SDGs は 2050 年目標の CE への「一里塚」であると言えます。

では、なぜ 2050 年に向け、30 年も前の「今」から取り組まなければならないのでしょうか。それは達成までのロードマップを考えてみると分かり易くなります。2050 年を目標とするならば、2040 年代半ばまでに、それらに寄与する新しいモノやサービスが次々に登場し、世界ではイノベーションが加速度的・連鎖的に起こるに違いありません。これらには革新的な技術が実装されているはず。新規技術の研究・開発をいつ始め、新規事業を通じた社会実装をいつしていくのか。例えば、特許期間 20 年を前提に考えれば R&D の仕込みは「今！」、新事業企画やイノベーション・デザインを行うのは「今！」、でなければなりません。

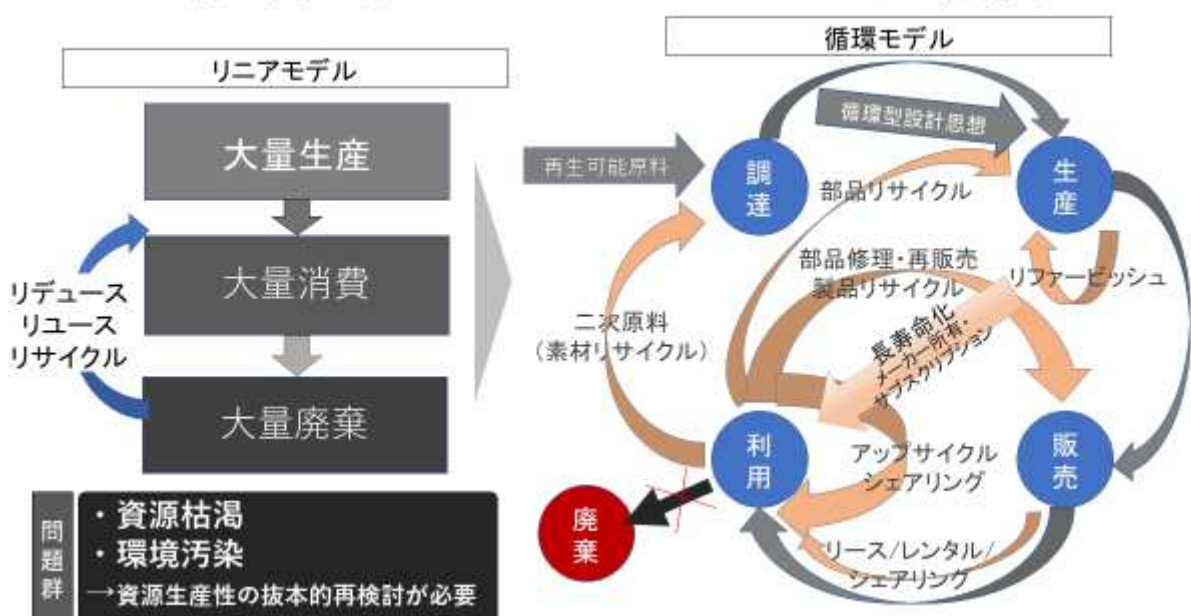
つまり、人類のサステナビリティを確保する CE へ貢献し、企業のサステナビリティを担う事業を検討することは、まさに「今」からの重要業務なのです！

本プログラムでは、この問題意識に基づいて、皆様の事業に貢献する企画群を揃えました。皆様のご参加をお待ちしております

# 本プログラムでは、主としてモノ（物質的資源）の循環を議論の対象とします。（エネルギー資源や情報資源も CE にとって重要な論点ですが、それらを対象にはしていません。）

# 循環経済生産性ビジネス研究会（月例会）は、「シーズン 1」として、まず CE の概要・動向等の基本的知識や問題意識を共有いたします。

## 循環経済へビジネスモデルの大転換



## 開催のご案内

本プログラムでは、循環経済について共に考える機会として、是非、ご参加賜りますようご案内申し上げます。

### ☆「ビジネスで創る循環経済社会」キックオフ・ミニシンポジウム

開催日時 2021年7月21日(水) 18:30~20:30

参加費 無料 (ウェビナーによるオンライン開催)

お申込み方法 4ページをご参照ください

## 循環経済生産性ビジネス研究会 (CE月例会)

日本生産性本部 (経営アカデミー) x 産学連携推進機構 共同企画

☆期間 2021年8月~2022年1月 各回18:30~20:30 オンライン

☆日程 第1回 8月25日(水) 「オリエンテーションとキックオフ講演」

第2回 9月22日(水) 「欧州におけるサーキュラーエコノミーの動向」

第3回 10月20日(水) 「環境経済学または環境工学から見たサーキュラーエコノミー(仮)」

第4回 11月24日(水) 「サーキュラーエコノミーへ向けた政策(仮)」

第5回 12月22日(水) 「サーキュラーエコノミーのビジネスインパクト(仮)」

第6回 2022年1月26日(水) 「サーキュラーエコノミーへの経済界の動き(仮)」

※詳細は別途ご案内申し上げます

当日、都合が難しい場合は、期間限定で視聴のご案内を申し上げます

☆対象者 役員、本部長クラス

☆内容 循環経済(CE)に関する国内外の最新動向及び日本企業、社会へのインパクトを中心に行政、有識者、企業等による講演及び質疑

## 循環経済ビジネスに向けたイノベーションとビジネスモデル講座 (基礎)

日本生産性本部 (経営アカデミー) x 産学連携推進機構 共同企画

☆期間 2021年10月~2022年2月 全10回、25コマ(水曜2コマ、土曜3コマ、原則オンライン)

☆日程 第1回 10月6日(水)13:30~17:30 第2回 10月23日(土)10:00~17:30

第3回 11月4日(木)13:30~17:30 第4回 11月20日(土)10:00~17:30

第5回 12月1日(水)13:30~17:30 第6回 12月11日(土)10:00~17:30

第7回 2022年1月8日(土)10:00~17:30 第8回 1月19日(水)13:30~17:30

第9回 2月2日(水)13:30~17:30 第10回 2月19日(土)10:00~17:30

※上記日程は一部変更になる場合があります

☆対象者 部長、課長クラス 募集定員:25名様

☆内容 CEビジネスモデルに関する基礎学習を行います。

CE向けビジネスを検討するために必要な、ビジネスモデルの基礎と理論を実例で学習します。

## 生産性シンポジウム

☆日程 2021年12月~2022年1月開催予定(詳細は後日ご案内申し上げます)

☆テーマ 「サーキュラーソサエティの実現に向けて ~ビジネスも暮らしも変わる」(仮)

☆内容 循環経済社会形成に向けた行政(国、地方自治体)、企業、市民活動の連携のあり方や、実現への課題と解決策を議論

☆実施形態 オンラインでの開催を予定しています

## ◇ ◇ ◇ 実施概要とお申込み方法について ◇ ◇ ◇

### 「キックオフ・ミニシンポジウム」

テーマ 「ビジネスで創る循環経済社会」

開催日時 2021年7月21日(水) 18:30~20:30 オンライン

概要 「循環経済ビジネス課題講演及び各開催概要のご紹介」

講演(1) 「循環経済のビジネスインパクト」

妹尾堅一郎 NPO法人産学連携推進機構 理事長

講演(2) 「サーキュラーエコノミー EUの方針と取組み状況」

喜多川和典(公財)日本生産性本部 コンサルティング部エコ・マネジメントセンター長

参加者のご質問を受けての対談

喜多川和典 × 妹尾堅一郎

参加費 **無料**

お申込み方法 日本生産性本部経営アカデミーホームページよりお申込みください。

[https://www.k-academy.jp/ce\\_seminar/](https://www.k-academy.jp/ce_seminar/)

#### 講演者ご紹介

妹尾堅一郎(せのお けんいちろう) NPO法人産学連携推進機構 理事長

略歴 慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム株式会社勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産業能率大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、九州大学客員教授、一橋大学大学院MBA客員教授、長野県農業大学校客員教授等を歴任。現在も東京大学で大学院生や社会人を指導。また企業研修やコンサルテーションを通じて、イノベーションやビジネスモデル、新規事業開発等の指導を行っています。

喜多川和典(きたがわ かずのり) 公益財団法人日本生産性本部 コンサルティング部エコ・マネジメントセンター長

略歴 株式会社社会調査研究所(現インテージ)入社。消費財に関わるマーケティング・リサーチに従事、環境問題専任の研究員。その後、財団法人社会経済生産性本部(現 公益財団法人日本生産性本部)に移り行政・企業の環境に関わるリサーチ及びコンサルティングにあたる。上智大非常勤講師。

☆循環経済生産性ビジネス研究会(CE月例会)、循環経済ビジネスに向けたイノベーションとビジネスモデル講座(基礎)及び生産性シンポジウムの詳細は、日本生産性本部ホームページにて順次、個別にご案内申し上げます。

## お問合せ先

公益財団法人 日本生産性本部 経営アカデミー 担当:衛藤、梅村

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル 6階

電話:03-5221-8455 経営アカデミー:<https://www.k-academy.jp/>

Mail:[academy\\_info@jpc-net.jp](mailto:academy_info@jpc-net.jp)

※循環経済生産性ビジネス研究会(CE月例会)、循環経済ビジネスに向けたイノベーションとビジネスモデル講座(基礎)共同企画・運営:NPO法人産学連携推進機構(<https://nposangaku.org/>)

社会的問題・課題に取り組むために、広く産学官公民の協力の起点づくりを行う特定非営利活動法人として2004年に設立。特に、次世代産業に向けた「ビジネスR&D(調査研究)」と、啓発型研修やコンサルティングに多くの実績を持つ。